

教養学部テーマ講義

プロの生き方を学び、 「タフな東大生」になる

就任以来、濱田総長が提唱している「タフな東大生」。
現在、その育成のために、様々な試行が始まっています。
教養学部が行っている、この講義も試行のひとつ。
魅力的にして「タフ」な先達の姿に、学生たちは
自らの将来のイメージを重ねていることでしょう。



木村秀雄
大学院総合文化研究科
教授

行動シナリオの大きな柱のひとつとして「タフな東大生の育成」という項目があります。これは濱田総長の考えから出てきたもので、総長は昨年度の就任以来、度々、「タフな東大生」に関する発言をしてきました。現在、この方針を受けて、全学で様々な試みが始まっています。

教養学部では今年前半のカリキュラムとして、テーマ講義「グローバル時代をどう生きるか：プロフェッショナルが語る新たな可能性」を開講しました。学部前期課程（1、2年生）の学生を対象にした講義で「国際的な場面で活躍されてきた各界の方々をお招きし、大学時の勉強と生活、現在の仕事に至った経緯、世界や日本をどう見るか、などをテーマに自由に語っていただく」というものです。

このテーマ講義では「一方通行の授業」にならないように心がけました。45分程度の講義の後に30分以上の質疑応答時間を設け、各回の講師と学生たちのコミュニケーションを活性化することに務めました。開講前は「質疑応答時間が長すぎ

広い世界で活躍するために必要な 「何か」を掴み取ってもらいたい

るかな」と思っていたのですが、実際に開講してみると、毎回、多くの質問があり、講義時間をオーバーしてしまうことも少なくありませんでした。最近の大学生はあまり質問をしないとされていますが、この講義ではそのようなことはなく、学生が頼もしく思えました。

また、学生たちの提案によって、「学生による授業レポート」をホームページにアップすること、受講生同士が講義についてtwitterで議論し合う場を設けること、を実施しています。

各回の講師のお話からは、日本に閉じこもらずに広い世界で経験を積むことが大事であること、広い世界で働ける人が



【重点テーマ別行動シナリオ】 の以下の達成目標に対応!

4. 「タフな東大生」の育成

■ 全ての学生が、豊かな教養と深い専門性を備えた人材になるようにする。特に、海外体験・異文化体験を通じ、コミュニケーション能力や行動力を身につけさせる。

【例：国際的な活躍に支障のない語学力の習得などを旨とする。】

■ 卓越した学生が、自らの能力を最大限開花・伸長できるようにする。

日本の将来にとって欠かせないこと、自分の興味や情熱を大切に自由世界を選ぶ必要があることを、共通して受け取ることができます。

今後、このようなプロジェクトが全学的に広がっていくことで、タフな東大生の養成に大きな効果があるのではないかと感じています。



テーマ講義

「グローバル時代をどう生きるか：
プロフェッショナルが語る新たな可能性」

講義プログラム



第1回
4月9日

土井 香苗
国際人権監視団体
ヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京
ディレクター



第6回
5月21日

石井リーサ明理
照明デザイナー



第2回
4月16日

松本 大
マネックス証券株式会社
代表取締役社長CEO



第7回
5月28日

村山 斉
東京大学数物連携
宇宙研究機構長、
カリフォルニア大学
パークレイ校教授



第3回
4月23日

大島 賢三
国際協力機構 (JICA)
副理事長



第8回
6月4日

明石 康
元国連事務次長、
カンボジア・旧ユーゴ担当
国連事務総長特別代表



第4回
5月7日

松浦 晃一郎
ユネスコ前事務局長



第9回
6月11日

藤森 義明
日本GE株式会社代表取締役社長
兼CEO(米GE上席副社長)



第10回
6月18日

水越 豊
ボストンコンサルティンググループ
日本代表



第11回
6月25日

黒川 清
政策研究大学院大学教授



第12回
7月2日

星 岳雄
カリフォルニア大学
サンディエゴ校教授



第13回
7月9日

笠原 健治
株式会社ミクシィ代表取締役社長

第14回
7月14日

**総括討論
レポート提出**

Interview

「竹」のようにしなやかで折れない強さを



明石 康

元国連事務次長
カンボジア・旧ユーゴ担当
国連事務総長特別代表

—— 講義と質疑応答、お疲れ様でした。
本日の東大生に対する印象など、お聞か
せいただけますか？

明石 今日の学生さんたちは、非常に素
直で熱心でした。また、彼らの質問から
「自分の将来を国際社会というものとの関
連で前向きに考えよう」という意欲が感
じられましたね。

—— 東京大学では「タフな東大生の育
成」ということを掲げているのですが、
現在、国際的な場では、どのような若手
人材が望まれていると思われますか？

明石 「真の強さ」を備えた人材ですね。
様々な状況に柔軟に対応できるとともに、

どんな状況においても自分を見失わない
強さ。「竹」のようにしなやかで折れない
強さ。そんな適用性を持った人材が国際
的な場で望まれていると思います。

—— 「大学の国際化」に関しては、ど
のようにお考えですか？

明石 留学生比率、外国人教員比率を50
%くらいまで高めていく必要があります
ね。今、大学に求められていることは「指
導性のある人材」を輩出していくこと。
現在の日本は、将来に対して、なかなか
明るい展望を持つことができない。東大
は、良い意味で「国際的なエリートを育
成していく」という使命を帯びているの
ではないかと思います。

